



令和4年出水時の対応について

- ①日向市
- ②門川町
- ③美郷町
- ④諸塚村
- ⑤椎葉村
- ⑥宮崎北部森林管理署
- ⑦森林整備センター
- ⑧九州電力
- ⑨東臼杵農林振興局
- ⑩日向土木事務所

良かった点

■台風進路や気象状況を確認しながら、早めの組織体制及び適切な避難情報の発令に努めた。

□組織体制

9/16 (金)	17:00	臨時部長会 (台風対応協議)
9/17 (土)	10:00	情報連絡本部設置
9/18 (日)	8:00	災害警戒本部移行
9/18 (日)	13:00	災害対策本部移行
9/19 (月)	17:30	災害対策本部から情報連絡本部移行

□避難情報

9/17 (土)	18:00	警戒レベル3 「高齢者等避難」発令	市内全域
9/18 (日)	8:00	警戒レベル4 「避難指示」発令	市内全域
9/18 (日)	18:49	警戒レベル5 「緊急安全確保」発令	越表、坪谷、仲深 (特別警報)
9/18 (日)	19:21	警戒レベル5 「緊急安全確保」発令	耳川流域 (氾濫可能性)
9/18 (日)	19:36	警戒レベル5 「緊急安全確保」発令	小丸川流域 (氾濫可能性)
9/18 (日)	20:00	警戒レベル4 「避難指示」発令	塩見川流域 (氾濫危険水位)

■事前の対策として、安全対策対応に使用するカラーコーンや土のう、安全看板等の準備、倒木等の対策として、チェーンソー等の準備、その他資機材の準備を行った。

■事前にパトロール人員や配車等を決めて早急に対応できる体制を取った。

■河川氾濫等により甚大な被害が予想されたことから、市道や林道、下水道施設などの公共施設、農地や農業用施設などを中心に、早期の被害状況把握に努めた

■日向市消防団が令和2年9月から、実施しているツイッターは、各地区からリアルタイムで送られて来る災害現場からの映像が、情報収集において効果的なツールになった。

反省点・課題など

- 被害状況等の情報の集約と関係各課との共有方法の見直しが必要である。
- 水門監視受託者である消防団員に対して、市民から水門の開閉に関して問い合わせが多数あり、対応に苦慮した。
- 水門管理について、操作員の安全確保、操作の判断及び情報共有などの見直しが必要である。
- 市道などの倒木処理に時間を要した。
- 課題としては、普通河川での災害は進入経路が狭く分かりづらい箇所が多いため、地元住民から情報を得るほか、早急な発見及び対応が難しい。
- 停電について、多くの問合せや苦情の電話があり、対応に苦慮した。
- 車輦が入らない海岸等での流木処理方法についての方針が必要である。
- 短期間で全ての農地及び農業施設の状況を確認することに限界があり、特に、今回被害の大部分を占めた田への土砂流入については、稲刈りが終わっていない箇所もあり、被害状況の把握に困難を極め、あとから被害報告の連絡があるなど、全容把握に時間を要した。

今後の対応など

- 被害状況等の情報の集約と関係各課との情報共有・整理に係る対策本部員の確保を行う。
- 水門管理について、関係部署全体で協議し、情報伝達の迅速化・一本化を検討する。
- 県が実施する台風第14号耳川被害の検証結果を踏まえて、必要な内水対策の検討を行う。
- 次回の出水期に向けて、越水の原因とならないよう支障となっている草木堆積土砂等の対応を検討する。
- 台風通過後は、農地の所有者をはじめ、土地改良区や地元組合等とも協力しながら、被害調査・報告を早期に行っていただくよう、広報紙やビラ等を活用し啓発に努める。
- 地域での防災講話（訓練）や地区防災計画の策定支援を通し、早期避難の重要性や日ごろからの備え、大規模災害時における避難所運営について継続して啓発を行う。
- 日向市水防計画の再確認を行うと共に、出水期前に水防工法の研修を例年(5月末頃)どおり実施する。
- 日向市消防団が実施している、ツイッターでのリアルタイムな情報発信が、大変有効であることが実証されたので、今後もおおいに活用していく。

良かった点

- 延岡市・日向市とオンライン会議を常時行える状態にしていたため、県の危機管理課等が急遽開催した会議等への対応も素早くできた。
- 高齢者等避難の情報を台風接近前より出していたため、台風が近づいてくる前に避難完了をしていた住民が多くいた。
- 緊急安全確保を早めに発令し、消防団についても機庫待機ではなく、避難をさせていたため、人的被害等がなかった。

反省点・課題など

- ペット同伴の避難者が多く発生したために避難場所の確保に苦労した。
- 避難所運営の職員等の交代要員が確保できず長時間労働となってしまった。
- 非常用発電機が屋内のため使えず、夜間暗い中での生活になった避難所があった。

今後の対応など

- 避難所についてペット同伴可能な場所の設置を検討中
- ポータブル蓄電池を避難所へ配置できるように予算措置中

良かった点

- 特になし

反省点・課題など

- 九州電力（ダム・河川・電力）との連絡体制（窓口の一本化等）

今後の対応など

- 被災者に対する早急な支援体制の構築（災ボラ体制等）

令和4年台風14号 状況報告

令和4年10月5日(水) 15:00 時点

●本部設置状況

9月17日(土)	15時00分	情報連絡本部設置
9月18日(日)	4時26分	大雨警報(気象庁)
	6時20分	暴風警報(気象庁)
	7時00分	警戒レベル3「高齢者等避難」発令
		※美郷町全域2,073世帯4,572名(以下同じ)
	9時00分	災害警戒本部設置
	9時00分	警戒レベル4「避難指示」発令
	9時29分	洪水警報(気象庁)
	9時45分	土砂災害警戒情報(気象庁)
9月20日(火)	18時10分	警戒レベル5「緊急安全確保」発令
	18時35分	大雨特別警報(気象庁)
	19時00分	災害対策本部設置
9月20日(火)	4時51分	大雨警報解除(気象庁)
	4時51分	避難指示(緊急安全確保)をすべて解除
~9月26日(月)	17時00分	災害対策本部解散

●人的被害

・軽傷者 1名 北郷地区において、90代女性が避難中に転倒。

●被災家屋情報

地区名	床上浸水	床下浸水	非住家	合計
南郷 神門下区	1	4	0	5
西郷 花水流区	1	2	6	9
西郷 和田区	14	1	3	18
西郷 下区	2	0	3	5
西郷 上区	0	1	0	1
北郷 中原区	0	1	0	1
合計	18	9	12	39

●避難所開設状況

★9/24(土) 17:00全避難所を閉鎖

避難施設	世帯数	人数	備考
和郷コミュニティセンター	0	0	9/23 12:00閉鎖
古川コミュニティセンター	0	0	避難所登録なし 9/23 12:00閉鎖
土区コミュニティセンター	0	0	9/23 17:00閉鎖
合計	0	0	

●孤立世帯

★9/24(土)14:00全世帯解消

地区名	世帯数	人数	路線名	備考
西の八峽	0	0		9/21解消
山三ヶ中尾	0	0	町道760号小八重中尾線	小原山神線から迂回路で通行可能(9/24解消)
山三ヶ野々尾	0	0	町道213号山瀬長崎線	島戸側から迂回路で通行可能。また椎葉村側からも通行可能(9/24解消)
山三ヶ持田	0	0	町道213号山瀬長崎線	
山三ヶ長崎	0	0	町道213号山瀬長崎線	
鬼神野新屋敷	0	0	国道388号神門~椎葉間	9/21解消
鬼神野弓弦葉	0	0	国道388号神門~椎葉間	9/21解消
渡川中渡川	0	0	県道39号西都南郷線	9/21解消
	0	0		

●簡易水道施設断水エリア

浄水場名	断水事由
水清谷	取水施設破損
鬼神野	停電・導水管破損
渡川	停電
黒木	停電
和田	停電・導水管破損
下八峽	停電
小八重	水源地つまり

★9/23(金) AM 町内全域の簡易水道施設復旧

●農集排施設

地区名	事由	対応
花水流	施設水没のため不調	バキュームカーにて他の稼働施設への汚泥の搬送
和田・若宮		

●停電エリア

★9/24 夜に町内全域で概ね復旧

地区名	総戸数	停電戸数	備考
北郷宇納間	3,790戸	最大で約1,040戸	
北郷入下			
西郷田代			9/24 22:00復旧
西郷山三ヶ			9/24 15:00復旧
南郷土渡川			
南郷鬼神野			
南郷中渡川			
南郷水清谷			

※引き込み線断線等により個別に停電が発生している世帯あり。

良かった点

- 特になし

反省点・課題など

- 停電により各世帯に設置してある防災行政無線に電力が供給されず、予備の乾電池も消耗し村からの情報が届かない世帯が多数発生した。
- 停電により各世帯の固定電話と一部の携帯電話が不通となり、各地区との連絡が困難になった。
- 衛星携帯電話の更新中に被災し、通信できない状況となった。
- 支援物資を多数頂いたが、人員不足と道路状況により各地区に配布することが困難となった。

今後の対応など

- 各世帯に防災行政無線の予備電池の備蓄を呼びかける。

良かった点

- 台風対策は事前にある程度の予測が可能であることから、台風14号に関しても進路予測等から数日前には関係機関や住民へ注意喚起を実施できていた。
- 台風が週末に上陸する予測であったため、16日（金）に災害対策本部会議を招集し、関係機関と対策等について協議したため、台風通過後の対応までスムーズに対応できた。
- 住民避難や情報収集は自主防災組織である各公民館と消防団が連携してこれまでどおり実施しており、早めの自主避難の呼びかけから台風通過後の情報収集、安否確認までスムーズに対応できた。

反省点・課題など

- 台風14号は平成17年台風14号災害以来の約20年ぶりの大規模災害を発生させた台風であり、当時の災害対応をした職員がいる部署とそうでない部署での対応の遅れ、若い職員への事前の指導不足などが若干見られた。
- 停電等に伴う情報伝達手段の途絶により、衛星携帯電話が有効活用されたが使用方法の習熟が不足していた。

今後の対応など

- 災害査定中であるが、来年度の出水期までに復旧できない場所の対応に不安がある。
- 今回の関係機関との連携をさらに強固なものにしていくため、情報共有のあり方や事前対応について協議を行っていく。

良かった点

- 国有林は国道、県道、市町村道を経由し林道に入ってからでなければ状態把握が出来ず、事前の対応といえは国有林内で事業実行している事業体に対し、資機材の被害防止対策の要請を行っている。

反省点・課題など

- 現地確認が難しい規模が大きい被害が発生したときは九州森林管理局治山課でヘリコプターを借り上げ、国有林内を主体としつつ宮崎県職員も同乗して山地の崩壊等の被害状況を確認した。
また、森林事務所から、署職員から、国有林防災ボランティアから、国有林に至る道路状況を直接目で確認し、逐次情報を更新し国有林内での被害状況を把握した。
- 手が回らないときには各自治体に忙しい事を承知で電話で状況を確認させてもらった。逆に国有林近辺での被害の状況情報が連絡されたこともあった。

今後の対応など

- 国有林は範囲が広く、どこに被害が発生するか毎年変化があり予想が付けにくいところである。奥地での被害把握はもとより直接人家に影響があると思われるところの被害確認に重点を置く。

良かった点

- 関係市町村や森林組合、地元土地所有者などの関係者から情報提供を受けることで被害箇所を把握することができた。
- ドローンを活用することで、より簡易に詳しく被害状況を確認することができた。

反省点・課題など

- 事業箇所が奥地水源林にあるため、被害状況の把握に時間を要した。
- 事業地までのアクセス道の被害が激しく、詳細な被害状況を把握できていない箇所がある。
- 被害状況を早期に把握することが課題となる。

今後の対応など

- 災害に強い山づくり、道づくりを進める。
- 災害発生時は、現地で状況を確認することに努める。
- 今後の大規模な災害が発生した際、被害状況を撮影した航空写真等を共有いただきたい。

良かった点

- 治水協定及び操作規程に基づき適正な事前放流操作が実施できた。

反省点・課題など

- 特になし

今後の対応など

- 引き続き治水協定及び操作規程に基づいて適正に事前放流対応を実施する。

良かった点

- 梅雨・台風時期前に日向市と合同で、防災重点農業用ため池の現地調査を行い、情報の共有化を図ることができた。



防災重点ため池の点検状況

反省点・課題など

- 災害規模が大きく被災箇所も多かったため、東臼杵と西臼杵管内の市町村から職員派遣要請があったが、十分に応えることができなかった。
- 大規模な災害が発生した場合、道路や水道等のライフライン復旧が最優先であり、農地・農業用施設の災害状況の把握がなかなか進まなかった。



河川護岸と農地の被災状況

今後の対応など

- 大規模災害時における市町村への支援体制の整備
- 災害復旧に係わる迅速な情報提供

良かった点

- 国土強靱化対策等の予算を活用した河道掘削や堤防整備等による浸水被害の低減への一定の効果
- 市町村とのホットラインの実施による情報伝達
- 災害査定における市町村への応援派遣、連携体制の強化

反省点・課題など

- 浸水被害軽減のため治水対策の推進
- 内水氾濫箇所における安全な水門操作
- コンサルタントの人手不足による災害測量や設計の遅れ

今後の対応など

- 次期出水に備え、浸水被害があった箇所の河道掘削等の実施
- 内水氾濫箇所における浸水要因の分析や樋門操作環境の改善
- さらなる効率的な災害査定に向けた体制整備や連携強化